

共同助成(埼玉県遊技業協同組合)

「埼玉こども食堂 応援キャンペーン2017」事業

子どもの貧困対策のみならず食を通じてつながることで地域の育児力を向上させる「子ども食堂」を広報

子どもなどを対象に、NPO法人やボランティア団体などが食事を無料もしくは低額で提供する、いわゆる「子ども食堂」の活動が広がっている。埼玉県の地方紙『埼玉新聞』を発行する埼玉新聞社では、「埼玉こども食堂 実行委員会」を立ち上げ、県内で活動を続ける子ども食堂の実施団体などを応援するキャンペーンを開始した。



埼玉新聞に掲載された特集記事

多様な形態で実施される子ども食堂の把握と情報発信で県民に現状を知ってもらう活動

子ども食堂と一口にいわれているが、その実態は多岐にわたる。一般的には、経済的な理由などで十分に食べられない子どもに食事を提供することを目的とする活動と理解されているが、それにとどまらず、例えば一人親家庭や共働き家庭などで「孤食」を余儀なくされている子どもの食事環境の改善、あるいは地域住民の交流促進の一環として行われているものなど、その目的は様々であり、実施場所も公民館、集会所、店舗、個人宅など、さらに実施団体や開催日時なども様々な形態がある。いずれにしろ、「子どもが一人でも安心して来ることができ、食事を楽しむことができる居場所」として機能しているのが子ども食堂と言えるだろう。

埼玉県福祉部少子政策課の調べによると、埼玉県内

の子ども食堂は83カ所となっている(2018年1月10日現在)。埼玉新聞社では、「一人親、非正規雇用などに起因する経済格差や子どもの貧困問題を背景に持つ子ども食堂が、一部の県民にしかその実態が知られていない現状がある中で、地方紙として、その情報を吸い上げ、発信していくことで多くの方々に子ども食堂の存在を認知してもらい、その活動に賛同していただきたいという思い」(埼玉新聞社 東京支社 営業部 天野仁裕さん/同社 クロスメディア局 竹内健二さん)から、関係会社などと共同して「埼玉こども食堂 実行委員会」を組織し、AJOSCと埼玉県遊技業協同組合の助成を活用して、「埼玉こども食堂 応援キャンペーン2017」に着手した。その成果として、2018年6月に子ども食堂の活動実態を紹介する特集記事を埼玉新聞に掲載した。

川越市の子ども食堂とコラボ企画を実施して子どもたちが楽しむ食事の場を提供

実行委員会では取材を続ける過程で、「子ども食堂を子どもの貧困対策としてだけで捉えるのは、問題を狭めることになる」と感じ、むしろ子ども食堂を地域の再生や地域の育児力向上のきっかけとして捉え、「みんなで食べるとおいしいよ」をキーワードに活動を進めることを方針とし、別件の取材を通して知った川越市の霞ヶ関北自治会が運営する子ども食堂「にここ食堂」とのコラボレーション企画として、2017年12月25日に地域住民と子ども、親と子、祖父母と孫の3世代と一緒に楽しむ食事の場を提供することにした。

当日は、11時30分の開店と同時に席は子どもたちであふれかえり、入口の外にも行列ができるほどの盛況ぶり。このコラボ企画において、実行委員会では、にここ食堂側と協議の結果、クリスマスケーキを提供することとした。さらに実行委員会のメンバーである竹内さんが当日のサプライズゲストとしてサンタクロースに扮し、参加した子どもたち

にプレゼントとしてショートケーキを手渡した。天野さんもオーダー、配膳、片づけ、ケーキの準備など、スタッフの一人として汗をかいたという。

「取材を通じて、各地の子ども食堂では運営側のマンパワー、場所や設備の確保などの問題から継続に苦慮しているところが多いことがわかりました。今後は、紙面を通じて問題提起することなども検討し、行政や企業も巻き込んで、実施団体同士が協力し合えるような態勢づくりのお手伝いもできればと思っています。まだ活動をスタートしたばかりですが、着実に長いスパンで継続していきたいと考えています」と、天野さんと竹内さんは決意を語った。

埼玉県遊技業協同組合より

子どもたちが単に食事をする場所としてでなく、交流や地域コミュニティの醸成など様々な広がり期待しています。今後も支援を継続していきたいと思えます。



川越市の「にここ食堂」でクリスマス会を開催



子どもたちにはクリスマスケーキをプレゼント

助成団体: 埼玉こども食堂 実行委員会



地域の育児力に注目しつつ、子ども食堂を広報していきたい

実行委員会を立ち上げるにあたって、活動のベースとなる資金が必要でしたが、今回助成をいただけたことで、それが可能になりました。地方紙として、地域で子どもを育てること、見守ることのお手伝いをできればと思っていましたが、そのきっかけになりました。埼玉県遊技業協同組合とも情報交換しながら、今後も子ども食堂の広報活動などに取り組みたいと思えます。

埼玉こども食堂 実行委員会
埼玉新聞社 東京支社 天野仁裕さん